

アピール

“さよなら原発ヒロシマの会”は皆さんの支援により今年7年を迎え、一人一人の小さな力でここ迄歩むことが出来ました。

日本においては社会的、政治的な不合理とか不条理が色々と存在します。

その一つは福島第一原発が事故を起し、その為数多くの方が亡くなり、肉体的にも精神的にも被害を受け、その上六万人以上の人々がいとしい古里を追われ、いまだ避難生活を続けています。

この人的災害を経験したはずである政府は原発の稼働継続の姿勢を示し、破綻した原発システム自体を輸出しようとしています。

全国の原発から出る放射性廃棄物の処理はままたらず、高レベル放射性廃棄物(核のゴミ)を廃棄する場所を政府は探し続けています。茨城県東海村で最初の原発が稼働し始めた1966年から今迄約52年間迷走を続けていますが、未だ場所は決まっていません。

一方伊方原発の仮処分の即時抗告審の審理が広島高裁において行われて来ました。昨年12月野々上裁判長は火山災害の発生を軽く判断してはいけないとして、画期的な差し止め仮処分の決定を下しました。

昨年12月10日 ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)はノーベル平和賞を受賞しました。ノルウェー・オスロの会場において被爆者であるサーロー・節子さんは格調高く次の様に訴えました。

“人類と核兵器は共存できません”

私達はこれに付け加えて、訴えましょう。

“人類と原発は共存できません”

人間は自然の中で生れ、自然の中に生かされています。

私達は自然エネルギーの下で放射能のない空気を吸い、水を飲み、汚染のない土地で生きようではありませんか！

平成30年1月28日

さよなら原発ヒロシマの会 総会参加者一同